



千石氏のレコードを発見した林上席事務職（東京都町田市）



千石興太郎氏の肖像画

千石氏のレコードを発見した林上席事務職（東京都町田市）

千石氏のレコードを発見した林上席事務職（東京都町田市）

（昭和4年）年、米国ウォール街の株価暴落に始まつた世界恐慌は、日本の農村にも波及した。生糸の価格は3分の1、米価は半値に暴落。政府は救農土木事業などの公兵事鎮静化しようとした。

農業を実施し、世情不安を緩和するため、必ず取らざるべからざる道

## 産組運動に尽力の千石興太郎氏

戦前の産業組合中央会（農業協同組合中央会の前身）の会頭や戦後に農相を務めた千石興太郎氏（1874～1950）の演説を収録したLP盤レコードが見つかった。「産青連盟反に告ぐ」とのタイトルが付けられ、演説の肉声が収められている。当時の状況に詳しい関係者によると、1933（昭和8）年4月の「全国産業組合青年連盟（産青連）結成大会」での演説とみられ、当時の経済状況を背景に、千石氏の協同への強い思いを盛り込んでいた。

# 演説レコード発見

全国教育センター資料の中

経済界に対抗

演説全文

諸君、一本の矢は3歳の小兒でも容易に折ることはできるのであります。ですが、数本、十数本となれば、大人でも折ることはできません。このことは、弱きものは協同せざるべからずという鉄則を物語るのであります。われわれの産業組合運動を一貫するところの精神は協同であります。

産業組合運動は、協同によって出

りて完成するところの相互主義によります。経済上の弱者、都市においては中小商工業者をはじめとして、俸給生活者、労働者、また地方においては農業者、漁業者等の経済上の弱者にとりては、その経済的地位を確立し、その生活を安定、向上するがためには、その経済的活動を協同化するより他に方法は無いのであります。

特に農業者にとりては、その仕事の全体にわたりて、生産の上にも消

費の上にも、技術的にも経済的にも、協同することが農業者の生きるために、必ず取らざるべからざる道

なさんとするのであります。これにのであつて、農村、農民生活の安定期を期すことができるのです。

而（しこう）して、これがためには、産業組合運動の本質を理解し、現状を認識したる青年が、組合のため具体的の活動をなすことが、極めて必要なのであって、われわれが産青連の正常なる発達を希望し、その将来に大なる期待を持つ所以（ゆえん）はこれがためなのであります。

### 千石興太郎氏の略歴

1874年	東京府豊島郡日比谷（現東京都千代田区日比谷）に生まれる
95年	札幌農学校卒業
1906年	島根県農会技師、大日本産業組合中央会島根支会理事
20年	産業組合中央会主事
23年	全国購買組合連合会（現全農）専務理事
33年	全国産業組合青年連盟（産青連）委員長
38年	貴族院議員（勅選）
39年	産業組合中央会会頭
40年	全購連会長
45年	産業組合中央会会頭
50年	農林大臣
	死去

千石興太郎氏の略歴  
（反産運動）を全国的に展開した。

集まった青年たちに「産業組合運動の本質を理解し、現状を認識して組合化する組織」と位置付け、「協同による農村、農民生活の安定を期すことができる」と強調した。

當時、同会主席主事だった千石氏は、約3分間の演説の中で「産業組合運動は農業者の経済活動をなすことが必要」と呼び掛けている。

（反産運動）を全国的に

商業者側に対抗する運動に組織を挙げて取り組んだ。その中核・実戦部隊

として産青連を結成。自ら委員長に就任し、先頭に立った。

元JA全中教育部長で『君臣平田東助論』など

の著者がある佐賀郁朗氏

は「一村だけの小さな協同だけではなく、道府県全体、さらに全国の農業者の力強い協同にまで進まなければならぬないと訴えていた」と説明。「敢然と経済界に立ち向かって歴史を振り返ることは意義深い」と語る。

（発言のまま）